

いしかわ地域づくり円陣2008

分科会

各分科会から見えてくる“地域の価値”とは？

第1分科会

繋がりからのまちづくり

～未来へ繋ぐ市民と行政の協働～ ... 5

第2分科会

里山からの地域づくり

～体験をとおして見つける地域の魅力～ ... 11

第3分科会

水と食から地域を見直す

～毎日の生活の中にこそ、価値あるものが～ ... 15

第4分科会

地域資源として「まち」を活かす

～「まちの駅」を利用した地域づくり～ ... 19

第5分科会

デザインが持つ“ちから”

～地域資源をデザインするまちづくり～ ... 25

第1分科会

繋がりからの まちづくり

～未来へ繋ぐ市民と行政の協働～

担当団体 / 能美市協働型まちづくり市民会議

「協働のまちづくり」が大切だと言われているけれど、「なんとなくぼんやりして分かりにくい」と思っている人が多いのでは？協働事業をとおして見えてくる、私たちが解決すべき課題を一緒に整理してみよう。自分たちのまちの課題を協働で解決できるようになるために必要な繋がりを重視した「仕組みづくり」や「人づくり」を参加者とともに考える。

ゲスト

関戸 美恵子 氏 (せきど みえこ)

NPO起業支援ネット 代表理事

コーディネーター

森山 奈美 氏 (もりやま なみ)

(株)御祓川 代表取締役

石川地域づくり協会コーディネーター

能美市協働型まちづくり市民会議

市民と行政による協働のまちづくりを推進するため、市民と市職員で構成された組織です。市民ミーティングなどにおいて地域活動の事例紹介や情報交換などを行い、協働のまちづくりを推進しています。

1. 分科会の趣旨

(1) 分科会の趣旨

今までは、行政が主導して課題解決(事業)を行ってきたが、これからは、市民団体や企業など多様な主体が担い手となって、行政と協働していくことが必要。

まずは、活動してみて、その中でどのように連携をしていけばよいかを模索しながら進んでいくことができればよい。

活動が継続していくには、リーダーの存在などいくつかのポイントがある。また、他団体同士や市民と行政間を取り持って、情報交換や相談に乗ってくれるような役割の人材も必要になってくる。

(2) 「協働」に対する認識

一方の立場では難しい地域の課題を解決するための取り組み。

市民、行政、専門家の英知を集め、協働で取り組む地域活動。

縦割りではない横の繋がりを持って取り組む活動。

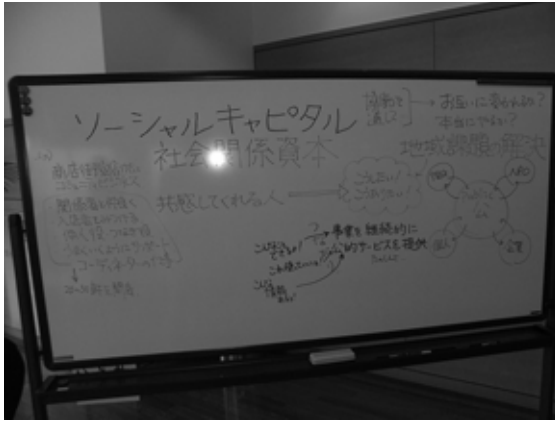
(3) ゲスト・関戸 美恵子氏の講話

協働について、関戸氏が紹介するコミュニティビジネスの事例、参加者自身が抱えている地域課題を話し合い、地域づくりで大切なことを検討した。

我が国は、高度経済成長期を経て遮二無二経済発展を目指してきたが、その中で人との繋がりや働く喜びなど、人間らしさを失った感もあり、現実的な問題も多い。

そこで、地域の問題を解決するためのアプローチとして、行政が行う、市民が行政と共に取り組む、宗教や法律等といった方法論の中で関戸氏はビジネスに可能性を求めた。

これまでの価値観はマネーゲーム、儲けることがビジネスとされたが、今後はどうな



意見の要旨

るか、このことが関戸氏の活動の根幹を成す問題意識である。

関戸氏は地域の課題解決にあたり、ビジネスの視点で解決に取り組むソーシャルキャピタル（社会関係資本）の構築が必要と考えた。

このことは、各々が力を出し合い、100年後の地域ビジョンを共有し、そこに近づくために、どのようなビジネスをおこすべきかを模索することにあつた。

従来、身の丈ビジネスや毛細血管型まちづくり、食べていける市民運動など、さまざまな呼び方をしてきたが、コミュニティビジネスという言葉が英国から取り入れられることでその考え方をよりよく表現しているとして、今日一般的に使用されている。この考え方は、ビジネスの価値を転換する、利益最重視ではなく、オルタナティブの道、成功基準を変えるため、介護・子育て、環境問題、防災など、それらの6～7割がNPOや株式会社、LLC、LLPなどの法人格を有することで進められる中、何のために何をどのようにするかを視点とした。金がなくてもできること、夢や理念に共感し、エネルギーを集め、力として事業を成功させることができないか。

例えば、介護事業がその典型例。30年以上もボランティア活動として続けられた事例が、有償ボランティアとして国の介護保険指定事業者としてサービスを担う形態を

とり、地域に根ざした活動を進めた結果、有償であることで活動の危機もあったが、現在ではボランティアで関わる人とNPOが役割分担をして地域で1億円以上を売り上げるビジネスとなった。このビジネスは、地域の人が繋がっていることで成り立っている好例である。

個人の特技を提供し、人の歴史が繋がることが大事。これは、ソーシャルキャピタルが形成されていることになる。人間関係を大切にしながら活動を進めたことで、社会が求める活動であることを信念として持ち、楽しく活動を進めてきた。

楽しそうに活動を行っている、地域の人が集まって来やすくなる。当時の関戸氏は、金には困っていたが人が集まってきた。社会で認められるネットワークが形成されてきたことでソーシャルキャピタルが構築された。

その事例として、名古屋市内の商店街空き店舗活用事業が紹介された。ここでは、コミュニティビジネスの誘致を提案し、コーディネーターを務めることにより、各地の商店街に出向き空き店舗情報を集めること、コミュニティビジネスを前提とする出店希望者を探すこと、両者を繋げること、出店後の支援を中心に行った。

空き店舗は居住者がいる場合や所有者が駐車場化の意向を持つなど、必ずしも空き店舗の活用希望者だけではない。居住者は空き店舗に出店を希望する中でトータル20～30件の空き店舗を誘致できた。その後、市の予算がなくなり、コーディネーターの謝金も支払われなくなったため、現在はそうした活動を行っていない。

商店街への専門家派遣として、商店街の人自身が出店希望者を誘致することをコーディネートした。高齢者を相手にワークショップも行った。見学会も実施する中で次第に地元店主らの理解が得られ始めた。



ゲストの話聞く参加者

商店街で介護保険認定を外れた人が集まる場所を提供することも進めてきた。出資金として債券を売り出して空き店舗活用の協力者を募った。県の出店補助も得て事業を始めた。

人が集まり出すと高齢者の人が集まってきた。マスコミが来ると、地元の人に元気が出てきた。すでに4つの出店があった。商店街の衰退は、あきらめと高齢化がやる気を失わせたが、女性のパワーが人を集めた。「こうしたい、これが楽しい」と人に説くことで人の協力が得られた。

また、名古屋市のまちなかで廃校となった小学校の活用策として、コミュニティビジネスやNPOの拠点として「コンピ本陣」を設立した。

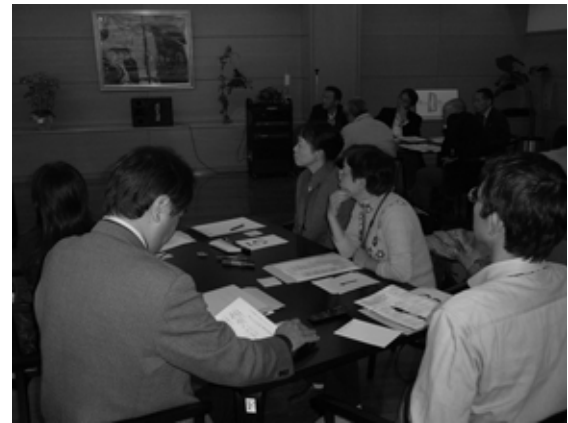
市は、地域住民のニーズを施設に反映しきれなかったため、初めは地域から施設の存在自体が認められなかったが、3年をかけて地域の人に来てくれる催し（地域参観日など）を進めることで地域の人々のニーズが聞ける状態になった。

こうした活動では、人の弱みと強みを踏まえて、きれいごとではない取り組みを続けてきた。地域の人たちに活動の意義を理解してもらえ、嬉しさが活動を支えた。

2. 意見交換

Q. 社会関係資本とは？

A. 人と人、地域づくりの思い、地域資源な



ゲストの話聞く参加者

どが地域課題を解決するきっかけとなり、一つのビジョンとして地域の力が繋がり活かそうとする理念。

Q. コーディネーターは1人から始まるのか？

A. 最初の1人は意志を持った人が立ち上がるという意味で1人。その人がいなくても活動を回すことが大事。例) 起業の学校など、自分の力で責任を持って人と関われる起業家が集まれる場所。起業しなくてもよい「類は友を呼ぶ」といった発想でメッセージを発信することが大事。

- ・楽しそうにしていると仲間と出会える。
- ・自分のためだけではなく複数のため、地域のため、共通のテーマを課題として生き方を重ねることが大事。
- ・エゴを我慢すれば、地域が良くなる。一緒になることで長期的には、地域全体として利益をもたらすことになる。合理的でハッピーな合意形成が図られることで、ちょっとした努力と我慢が「公共性」を育む。
- ・仲間には合理性を訴えること。「こんなに楽しいのにやらないと損」のような感覚を持つことが重要。

Q. 行政マンがボランティア活動をしない理由は？

A. 仕事の延長のような感じにもなっている所があるかもしれない。アフター5の個人活動において行政マン扱いしないことも市民として大事。

Q. 活動資金が減少する中で活動を進めるた

めに重要なことは？

A．活動で金が生じない場合もある。DV、災害復興、ホームレス対策など、施策と連携することが大事。公共が担うべき地域活動は金があって当然、そのために必要な行政による支援策等はあってしかるべき。

要は、商品やサービスを売り込める対象者を思い出すことが重要。活動を継続するには金の廻り、情報や人、技術の廻り（＝出入り）が大事。

Q．商店街のサポートとは？

A．個別のコンサルでは金が受けづらいので、客となる個人が出せる範囲を踏まえ、人が集まることで個人負担を無くする仕掛けが重要である。現在、関戸氏のコンサル料は、時間1．8～2．5万円で行っている。

Q．地域に対して、仕掛けるケースは？

A．委員会での提案はある。自身の社会資本が蓄積されることで行政から相談が増えてきた。行政の問題意識は共通するところがある。行政に金がない、あるいは予算権限がない場合はコンサルとして腹を決める。

- ・腹を決めるのは相互のメリットを踏まえて事業が前に出るかである。決めればやる（金が出なくても）。
- ・相互の状況を確認し合い取り組む。
- ・コンサルは複数の依頼者を持つことで補填し合う関係ができる。依存と批判は紙一重。
- ・全てが同じペースでは進歩がない。

Q．コーディネーターはどこまで関わるのか？

A．原則は予算枠での取り組みで終了。先方が必要とされれば関わる活動ができる人を支えることで間接的に支持する。業務として関わるが目標に向かって関係が続くことがいずれ自身の資本となる。

Q．活動のキーパーソンは？

A．活動支援者は取り扱いをもつ人と出会えること。話し合いをまとめる。参加者の合意形成に携わった人とネットワークをもつことで次の展開に繋ぐことができる。



グループワーク

- ・今後、「地域資源長屋」を名古屋市中村区で作りたい。定年退職した行政マン等を受け入れ、一緒に活動したいと思っている。
- ・協働でユニットをつくることは、ある活動が生み出され、組織だけではない「繋がり」が大切となってくる。

3．グループワーク

7つの項目(米づくりで地域振興、家庭菜園を通じたコミュニティづくり、高齢者支援など)について、参加者が持つ地域課題をグループで意見交換をした。

- ・分科会参加者の持っている課題に対して、解決できそうな人や解決策を検討。

米づくりで地域全体を元気にするには？

- ・献上米でPRする。
- ・元気が出る要素（栄養分）がある米づくり。



グループワーク



ワークショップ(自己紹介)

家庭菜園を通じた高齢者とのコミュニティづくりを進めるには？

- ・作った野菜を売ること、買い手と売り手のコミュニケーションを図る。
- ・話し上手な人、話を聞く人、働く人といった分業、活動の役割分担を図る。

今後、望ましい高齢者との交流のあり方は？

- ・恋をする場(機会)づくり。
- ・昔の思い出を話し合う。
- ・外に出る場を設ける(いきいきサロン等)。
- ・自分の好きなことを共有できる若者と交流する。
- ・おいしいものを作る。
- ・高齢者の素晴らしさを孫や子どもと語り合う。

子育てネットワークづくり、人が集まる拠点づくりについて、アイデアが欲しい。



ゲストの話聞く参加者

- ・行政の支援窓口を一本化する。
- ・ハードだけではなく、できることから取り組む。ハードだけではなく、支えられる人が育つことが大事。
- ・親や近所の人を相談し合う。人は繋がって生きている。
- ・子ども版グループホームを身近に設ける。

介護認定を受けるまでの高齢者の閉じこもり支援策がないか？

- ・広報、ケーブルTVで呼びかける。
- ・町会の「結い」などと連携した活動(週1~2回)。
- ・高齢者が集まりやすい場で活動を実施。

行政の支援を受けて花壇を作っているがメンテナンスが難しい。

- ・公民館のボランティア活動としては公民館の責任者を決める。
- ・子ども会と連携する。
- ・町内の早期ボランティア活動として、活動の輪を広げる。

公民館行事の集客増加策は？

- ・子どもを集め、親を引き出す。
- ・行事参加者のメリットを具体的にアピールする。

4. まとめ～新しい発見・今後の展開～

- ・協働活動は、合理性を理解し合って「繋がる」ことが大前提。意志を持った1人が始める活動を複数の技術を持った人で繋げていくこと、協力者を広げること、人・もの・金・情報を「廻す」こと、楽しみながら続けることが重要。
- ・誇りを持って弱音を吐く、「助けて」と「ありがとう」の循環が地域づくりを担う人材を支える。
- ・協働のまちづくりで必要となる基本的な考



ワークショップに取り組む参加者

第1分科会 参加者アンケート

分科会を選んだ理由

- ・時間が合った。行政について知りたかった
- ・職場で協働に携わっているから
- ・協働の街づくりに関する具体例をより多く知りたかった
- ・「協働とは・・・」について知りたかったから。コーディネーターが森山先生だったから
- ・地域の具体的な課題をもっているから
- ・これからのまちづくりをどのようにかかわって行けば良いか、ヒントでも
- ・繋がりからのまちづくり、というテーマに惹かれて
- ・協働に関心があり、理解を深めたいから
- ・仕事に活かすため
- ・市民と行政の協働に関心があったから
- ・生き方、働き方にどう活かせるか
- ・能美市協働型まちづくり市民会議メンバー
- ・市民会議の推薦

分科会はいかがでしたか？

- ・勉強になった。農村には課題が山積み。新しい手法（協働）に関心をもっている
- ・みなさんの発表された意見の中から良いヒントがあるかももう一度思い出してみたいと思う
- ・コミュニティビジネスの起業をコーディネートする話を中心。もっと協働について掘り下げて欲しかった
- ・とても参考になった（いろいろな事例が聞けて）
- ・発想やアイデア等の無限の可能性を感じさせられた
- ・行政マンとして、市民活動するために必要なことや助け合いの心の大切さを学んだ
- ・ますます「協働とは・・・」が分からなくなり、難しくなってきた
- ・参考になった
- ・話の内容と協働の意味の関連がいまいち理解できなかった
- ・行政からの意見がなかった
- ・体験談が大変参考になった
- ・いろいろな工夫を凝らしたやり方で大変良かった
- ・今後の協働の参考になった
- ・ゲストの関戸さんのスピーチが参考になった